

## 第3回検討会の主なご意見

### 1. 社会福祉法人日本盲人会連合 笹川吉彦会長からのご意見

- ・ 水害の場合は事前に情報が確実に提供されていれば何とか避難ができるのではないかと。
- ・ 自身でも当然身を守るということでいろいろ検討もしており、例えばシェルターのようなものを家屋の一角に、あるいは庭に設けるということも方法としてあるのではないかと。そういった方策というものが情報として入った場合は、できるだけ早く会員にも通知をしたいと思う。
- ・ 高齢、しかも全盲というような方々に対する救助対策も考えて欲しい。
- ・ 避難所のように広い場所では例えばトイレに行くというようなことがなかなか容易ではない。また援助物資やら食料等の配付があってもなかなか取りにいけない。
- ・ 1次避難所から、障がいの特性に配慮した2次避難所への移動をできるだけ早くしてほしい。

### 2. 財団法人全日本ろうあ連盟 太田陽介理事からのご意見

- ・ 地震や大雨などの災害が起きた時に、避難などについて放送があると思うが、聴覚障害者はその放送が聞こえないために、どうやって逃げたらいいのか、逃げないほうがいいのかわからない。耳のかわりに周囲の様子をみて、人が動く方向に逃げるんだなというふうに判断して避難するというケースが多々ある。
- ・ 聞こえない者としては、FAX、携帯電話、パソコンメールにより情報は入ってくるが、実際に災害が起きた場合に停電になってしまったら使えない。携帯でも電波が通じないと使いにくい。ため、情報が閉ざされてしまい非常に心配になる。逃げようと言われても、口の動きだけではわからないため、身振りを使うとか、簡単な手話だけでも覚えてもらい、コミュニケーションがとれるようにしてほしい。
- ・ 避難所では食事や毛布の配給の放送があってもろうあ者は何が何だかわからない。避難所の場合は周りに知らない人ばかりが集まっているため、コミュニケーションもとれず非常に心細くなり情報がほしいと思ってもなかなか自分から言えない。
- ・ 災害に対して、ろうあ者自身がどう対応する必要があるかということ、避難マニュアルとして全日本ろうあ連盟の会員約2万3,000人全員に配っている手帳に記載し、何か起きたらこれを見ながら対応するように周知している。

### 3. 事例集について

- ・ 自治体は地域性や置かれた立場が異なるので、経験や教訓に基づいた事例集は非常に有効なものであると思う。
- ・ 検討会として議論が深まった、障がいをお持ちの方々についての対応というのもの、ぜひ事例集に盛りこんでいただければと思っている。
- ・ 余裕があれば、市町村長、首長で被災された経験の方から書いていただくと、市町村長としてはとてもためになるという気がする。
- ・ 事業所との連携、特に介護保険の事業者は今までの災害でも相当がんばっていることがわかっていて、事業所との連携や、ボランティアの役割についても事例集には盛り込んでいただきたいと思う。

- ・ 本日の日本盲人会連合会及び全日本ろうあ連盟の方々のご発言も、事例集には盛り込んでいただきたいと思う。
- ・ 別府市での車椅子での避難訓練なども事例として掲載しては、いかがと思う。また、先ほどのお話しにあった当事者の参加ということの観点から、例えば実際の災害時で支援を受けられた障がい当事者の方の体験記などのようなもの盛り込んではどうかと思う。
- ・ 事例集は市町村に具体的にどのような対応をとれば良いのかを示すという点では、非常に有効な手段の1つなのではないかと思う。また、形式的な個別計画に限らずに、要援護者支援ということをきちんと実行できるような対応が重要である。
- ・ 避難生活支援で、阪神・淡路大震災における避難所へ避難してからの高齢者の死亡事例、亡くなった事例を掲載することは必要であるが、合わせて亡くならせることがなかった事例についても盛り込んではどうかと思う。一旦避難をした人々が、その後の生活過程で避けられる死への対策には、どのような支援が必要かということもぜひ書いておいていただけるといいと思う。
- ・ 山古志村が全村避難した際に、要援護者も健常者もとりあえずヘリコプターで降りた施設に避難していたが、そのあとに地域の状況に応じて避難所の再編をやっていたことも盛り込んではいかがかと思う。
- ・ 「ガイドラインの進め方」（平成19年3月）では、「対象者をリストアップしたらものすごい数になる」、「ハザードと脆弱性を重ね合わせて対象者を絞り込む」というような方針を取り上げており、「基本的な考え方」の第2段落に入れていただくか、第3の前に、そういう一般的な方略というものを一応考えたのだということを入れてほしいと思う。
- ・ 難病対策というのは都道府県の掌管事項になっているが、在宅で人口呼吸器を装着して生活されておられるいわゆるALSの患者さんについては、兵庫県はほぼ100名弱の方について、全員1人ひとり、だれそれさん避難マニュアルというのをつくっているの、事例として盛り込んでいただければと思う。
- ・ 事例を挙げるときに、自治体、地元のNPOなどメインになっている組織がどこなのかということも掲載することも必要である。
- ・ 4ページ目の6.1の実際の被災経験については、兵庫県の8月9日の佐用町の水害のときに、佐用町で4か所ある小規模多機能型の居宅介護事業所のうち2か所が被災して実際に床上浸水しており、介護度5の方を含めて、両事業所とも全員を安全に避難させている。それは、事業者と自治会と、そして行政というものがうまく協働が事前にとれていた、そういう大変卓越した事例であるので、ぜひそれは入れていただけたらと思う。
- ・ 障がい者団体の取組みというのでも盛り込んではどうかと思う。

以上